

北アルプス「白馬岳から親不知」縦走

平成24年9月7日(金)～10日(月)

日本山岳会「山」で募集あり早速申し込み同行させて頂きました。

9月7日(金)晴 白馬岳

念願がかない雲一つない快晴のなか今日から白馬岳から親不知縦走です。猿倉登山口で参加者13名揃い。事務局の清登緑郎氏よりリーダーは高橋努氏、サブリーダーは菊池武昭氏と紹介がありリーダーの高橋努氏よりご挨拶があり、「梅海新道縦走道は大変な思いをされ10年かけて切り開いたのです。その方は小野健さんです。3泊目は小野健さんの梅海山荘に泊まらせてもらいます。」と説明があり凄い人がいるのだと驚きまた初対面の方々も山の「鉄人」ばかりで緊張しました。

8:15 高橋 L を先頭に、総勢13名でスタートです。登山口より一時間程進むと白馬尻小屋があります。**9:35** 白馬尻小屋からさらに30分ほど登ったところで日本三大雪渓の一つで知られている大雪渓です。見上げると延々と続いており、全長3.5kmというから驚きです。今日も多くの方が歩いています。急登なので慎重に登る。雪渓歩きは気温が低いのか冷えてきたので重ね着をする。**11:30** 標高(2055m)かなり高度で景観に浸りながらお昼です。3.5kmの雪渓も終わりに近く綺麗な水が流れ乾いた喉には最高のご馳走でした。雪渓と別れると高山植物とお花畑さらに進むと急登続きです。村営宿舎を通り過ぎ尾根に出てさらに進むと大きな建物が何棟もあり、念願の白馬山荘に到着(2832m)14:30、ヤッター握手で喜びあいました。レストランで安着祝と明日の晴天祈願を生ビールで乾杯、食堂で夕食をとり登山客が大勢で驚きでした。明日を楽しみに早めの消灯でした。(歩行6時間15分)

9月8日(土)晴一時雨 白馬岳(2932m)・朝日岳(2418m)

おはようございます。リーダーの元気な声で一日がはじまります

白馬岳頂上は朝日に照らされオレンジ色に輝き早くも多くの人で賑わっているのが見える。

6:00 スタート **6:15** 念願の白馬岳登頂です。頂上には円形の大理石が置かれ、山頂からの360度の眺めは、朝日に照らされ抜群のロケーションでした。白馬山頂から尾根づたいに急下降し三国境を通過すると平坦でお花も多くまさに楽園です。避難小屋から雪倉岳へは急登で大変でしたが、頂上からは明日登る朝日岳が観え感動でした。また一気に529m下り小桜ヶ原の湿原に出る。登りに入ると三角屋根が見え歓声を上げる。真新しい木道を歩き待望の朝日小屋 **14:10** 到着です。到着と同時に高橋 L 提供の冷たいビールで「乾杯」ご馳走さまでした。山荘に入ると乾燥室もあり清潔で女将の清水ゆかりさんの手料理頂き美味しかったです。お布団も白のカバー付きとても気持ち良く眠れました。(歩行8時間10分)

9月9日(日)晴 朝日岳・梅海新道・梅海山荘

予報は雨で覚悟はできていましたが、なんと晴です。高橋 L から「今日は小野健さんが切り開いた縦走道を歩き梅海山荘泊りです。」のお話あり、女将のゆかりさんから「木道は滑るので気を付けて」のお見送りです。**5:30** 朝日小屋を後に濡れた木道を気お付けなが

ら歩き黄色に色づいたコバイケイソウ畑を見ながら朝日岳へと進む。**6:30** 朝日岳到着です。頂上は晴れですが気温は低く風もあり寒い、遠くには日本海と富山の街並みが見えた。少し下りた所で2羽の雷鳥に出会う、**吹上のコル**を過ぎると木道が現れ照葉の池です。この辺りから湿原歩きがはじまり、**8:00** 長梅山到着 (2267m) 標識はステンレスで文字を切り抜いたおしゃれな標識でした。ここからの眺めは最高で稜線上部には今夜泊まる梅海山荘も見え大満足です。アヤメ平、黒岩平と広大な草原と湿原がまた現れあちこちに数多くの池が点在しお花畑もあり素晴らしい景観に浸り、何時間もここにいたいそんな気持ちになりました。長いながい湿原とお別れしアップダウンを繰り返し **12:15** サワガニ山 (1612.3m) 到着です。山の名前の由来は、小野健さんの山岳会の名前を取って「サワガニ山」と命名したそうです。この迫力ある絶景の稜線歩きは本当に素晴らしく目に焼き付けてきました。北又の水場では男性に感謝です。一人2Lの13名分汲んでくれたのです。2Lの水を入れたリュックはずっしり重くここからは体力勝負です。玉の汗を流し長い急登を一步一步踏みしめニセピークにだまされ頂上が随分遠く感じました。**14:40** 犬ヶ岳到着(1593m)。頂上に着くなり座り込み休憩、眼下には梅海山荘の赤いハウスが私達を待っているかのように見え、嬉しくなり急いで山荘に向う。広葉樹を抜けると目に飛び込んできた赤い壁の大きな建物山荘です。**15:00**(1540m)梅海山荘到着です。キャンプ場が広く下界には富山の街並みが一望出来最高です。ありがとう万歳・握手をし安堵感に浸る。疲れすぎたのかみんな座り込み静かです。夜は特製の飲み物で山談義で盛り上がる。温かな毛布でよく眠れました。ありがとうございました。(歩行9時間30分)

9月10日(月) 快晴 梅海山荘・梅海新道・親不知・日本海

4:00 起床、好天を約束するかのような素晴らしいご来光を眺めました。**5:40** 4日間の縦走も今日が最後です。準備完了、下山開始です。山荘の裏からいきなり急下降がはじまり、見降ろすと綺麗な稜線で素晴らしい。振り返ると山荘は遥か高い山頂で朝日に照らされ赤い屋根が光っていた。黄蓮山を通り水汲みはまた男性群のお世話になる。遠くには白鳥山が単独峰でかまえているのが見えた。菊石山を通過し、かなりのアップダウンを繰り返しながら下駒岳に着く。**8:30** さあこれから直登の白鳥山です。長い急斜面が始まり炎天下と心臓破りの急登との戦いです。昨日の犬ヶ岳を思い出しながら登る、頂上の山小屋が見えてきた、**9:45** 白鳥山到着(1286.9m)です。ヤッター汗でグッジョリです、頂上は広く展望台付きの白い山小屋があり中は広く清潔、梅海新道開拓の小野健氏さんの本がありました。**10:15** 下山開始です。登った分降りなければならず坂田峠までは**675.9m**の下りです。下りるほどに気温も高く大変です。途中あったシキワリの水は乏しく半分で止めた。また急下降が始まり木につかまり梯子や崖を降りるような悪戦苦闘で坂田峠着 **12:28**、休憩をとり舗装道路を通過し、また登り返しがあり杉林の尻高山ブナ林の入道山とアップダウンが延々続き、下りるほどに遠くから車の音が聞こえて登山口が近くなったことを感じる。山から下り国道沿いの梅海新道登山口に出た **15:55** 着。4日間の感動を有難ございました

す。梅海新道縦走万歳、握手で喜びあいました。またリーダーの高橋努さんはじめ皆さん
ありがとうございました。国道を渡り親不知観光ホテルの駐車場へ渡ると、小野健さんと
集会委員の高橋聡氏のお迎えがあり、小野さんから差し入れの冷たいビールと西瓜と水大
福ご馳走様でした。あの感動と満足感は忘れることはできません。その後ホテル横の階段
を降りて0mの日本海へ行き、靴、靴下を脱ぎ膝まで海水につかり、標高2932.2mから0
までの縦走完遂できました。(歩行10時間30分)親不知観光ホテル泊りで豪華な海の幸
を頂き翌日ウェストン碑で全員記念写真を撮り解散、一路北海道へ

参加 13名 井上寛之 一鐵巖 大崎勝子 中谷秀子
神埜和之 錢亀三佐子 常本良一 助田梨枝子 大橋幸子
吉永英明 高橋努 菊池武昭 清登緑郎

記 中谷 秀子 (北海道支部)